

骨軟部腫瘍外科 レジデント研修カリキュラム

研修目的

骨軟部腫瘍領域は日本整形外科学会においても重要な分野に位置づけられているが、原疾患・発生部位・組織型などが多岐にわたり習熟には長時間を要する。診断が困難な症例も多く、治療は手術・化学療法・重粒子線治療を含めた放射線療法など近年の進歩はめざましい。本研修カリキュラムでは日本整形外科学会専門医取得の一過程にするとともに、稀少悪性腫瘍である肉腫に対する理解を深めることを目的とする。

研修項目

骨軟部腫瘍の疾患群を、1.良性骨軟部腫瘍、2.転移性骨軟部腫瘍、3.肉腫に分けて研修過程を構成していくことが、この領域を理解するために重要である。

疾患項目 1. 良性骨軟部腫瘍

ここでは、まず病理診断の適格性が重要である。治療は手術が主体であるが一部の組織型に対しては薬物療法も併用する。したがって、病理医との情報交換能力、適格な治療法の選択、手術手技の熟達が発得項目としてあげられる。

疾患項目 2. 転移性骨軟部腫瘍

すでに進行期の悪性腫瘍症例を対象にすることが多く、余命・全身状態に応じた治療法を選択する。手術の適応があるならばどのような術式を選ぶか、また疾患項目 1と同様に手術手技の熟達が発得項目としてあげられる。

疾患項目 3. 肉腫

当科診療の根幹となる疾患群であり、当施設の特徴をふまえた臨床経験を修得していく。上記疾患項目 1, 2 同様、診断・治療選択・手術手技の熟達はいずれもないが、整形外科(運動器領域)以外の肉腫症例の対応も多い。特に、2022 年現在全国で 7 施設のみで重粒子線治療施設を併設しているために、全国の複数診療科からの依頼もあり、「総合肉腫センター」としての当科の役割を実感してもらう場を提供する。

以上の疾患群分類ごとの研修のほかに、基本的修得項目として次のような基本的な項目があげられる。

基本項目 1. 画像診断, 病理診断

各種画像検査の読影方法、針組織生検・切開生検など修得する。

基本項目 2. インフォームド・コンセント

疾患の特異性, 複雑性から患者・家族への病態説明は熟練を要する. 段階を経て修得していく.

基本項目 3. 病棟スタッフとの情報共有

基本項目 2 同様疾患の特殊性を当該病棟スタッフと情報共有していく.

基本項目 4. 他部門との情報交換

病理診断, 放射線治療, また転移性腫瘍ならば原疾患科などと適切な情報交換をはかっていく.

基本項目 5. 緩和医療

進行期・末期症例への対応を修得していく.

基本項目 6. リハビリテーション部門との関わり

運動器リハビリテーションはもとよりがんリハビリテーションに関して修得する.

基本項目 7. 学術的活動

各腫学会・論文発表, また多施設臨床研究などへの携り方を修得する.

研修評価法

以上の項目をもとに下記の研修評価表を用いて習熟度合いを評価する.

最終改訂: 令和4年3月 16 日